

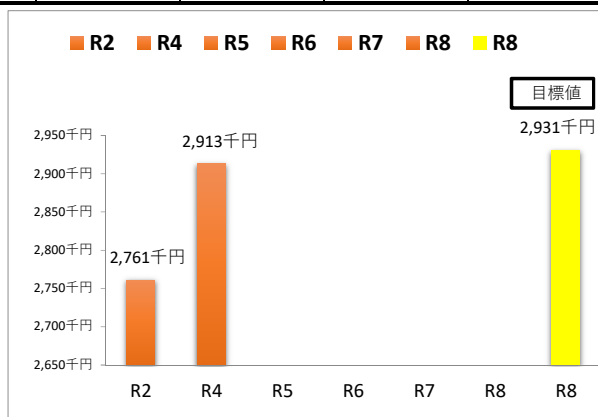
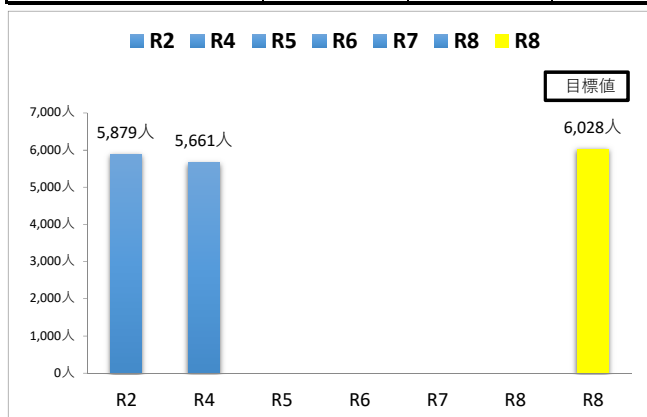
令和5年度版
第2期尾鷲市まち・ひと・しごと創生総合戦略
検証シート

令和5年12月
尾鷲市

基本目標1 稼ぐまちをつくとともに、安心して働けるようにする

施策概要・目的
<p>人口減少の進行とともに、労働力人口の減少、消費市場の縮小が進むなか、地域の稼ぐ力を高め、やりがいを感じることで魅力的なしごと・雇用機会を十分に創出し、誰もが安心して働けるようにすることが必要であり、そのために次の2つの取り組みを推進します。</p> <p>(1) まちの特性に応じた、生産性が高く、稼ぐまちの実現 尾鷲市における安定した雇用を創出するために、中部電力尾鷲三田火力発電所跡地で進めている「おわせSEAモデル構想」や、第1次産業における担い手の確保・後継者対策、新しい技術などを活用した地域企業の生産性の向上、また、地域資源を使った尾鷲の「食」を活かした地場産品等の販路拡大やブランド化のための的確なプロモーションやサプライチェーン・マネジメントの実施、地域の産業界・企業と大学、金融機関などとの連携等を中心にそれぞれの個性を活かした伴走型の支援を実施することで経済振興を図り、地域雇用の拡大を目指します。 また、延伸された高速道路の活用を図るほか、地域資源である海や山の恵みを活用した事業者の企業誘致を促進します。</p> <p>(2) 安心して働ける環境の実現 様々な人々が尾鷲市で安心して働けるようにするために、地域の稼ぐ力を高めるだけでなく、多様化する価値観やライフスタイル・ワークスタイルも踏まえ、テレワーク・ワーケーション・多拠点居住などの新しい移住スタイルに対応した移住サポートを実施し、誰もがその力を発揮でき自分の居場所を見出せる環境づくりを通じて、しごとの場であり生活の場である地域全体の魅力を高めます。</p>

指標名	現況値 (R2)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	実績値 (R8)	目標値 (R8)
就業者数 (市内在住)	5,879人	5,661人					6,028人
一人当たり市民所得	2,761千円	2,913千円					2,931千円



KPIの達成状況 R4実績値/R8目標値			取組項目 (小) の今後の方針について	
①100%	12	41%	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる	6
②100%未満 75%以上	3	10%	②事業内容の見直し(改善)を行う(または、行った)	1
③75%未満 50%以上	6	21%	③特に見直しをせず事業を継続する	5
④50%未満	8	28%	④継続的な事業実施を予定していたが中止する	0
合計	29	100%	⑤当初の予定通り事業を終了する	0

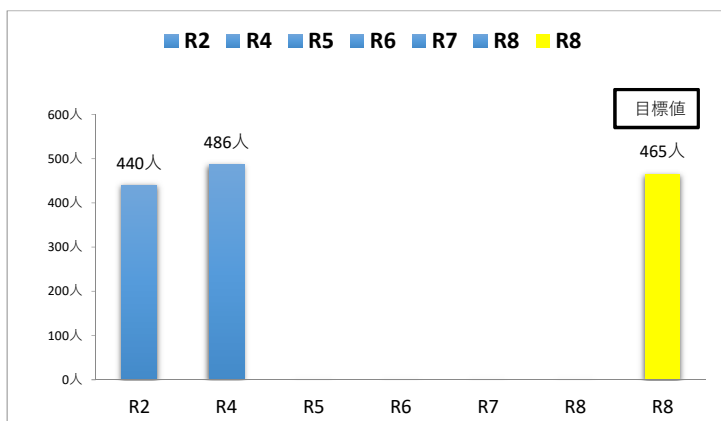
地方創生会議からの意見等
<p>1. 農業経営体数や農業産出額については、現在行っている有機農業を中心とした新しい取り組み(オーガニック市場への販路拡大など)や、農地相談会・新規就農相談会等により、実績数値の増加を期待したい。 また、特に耕作放棄地対策については、地域おこし協力隊退任後の市内定着や新規農業参入者への支援を充実させてほしい。</p> <p>2. 漁業就業者が激減する中、新規漁業就業者を募ることが必須である。現況では、行政が中心となって漁業体験希望者を斡旋することで就業に繋がることを期待する。</p> <p>3. 温暖化や黒潮の蛇行の影響による海洋の変化に対応するために、尾鷲湾・賀田湾の水質調査については、データを集積していくことも重要であるが、そのデータを広く漁業者が活用できるような仕組みを検討してもらいたい。</p> <p>4. きめ細かい対応が迫られる販路開拓支援や創業支援融資助成事業については、非常に良い結果が出ているので、今まで通り「商品のフラッシュアップや新商品の開発」に加え、これまでになかった分野への取り組みも含め、引き続き関係者と連携のうえ、事業に取り組んでもらいたい。</p> <p>5. おわせ海洋深層水については従来からの事業であるが、新たに始めた通販事業などにより使用料収入が増加していることから、引き続き事業を拡大を推進してほしい。</p>

基本目標2 繋がりを築き、新しいひとの流れをつくる

施策概要・目的
<p>尾鷲市は2019（令和元）年で120人の転出超過となっており、その大半は若年層で多くの若者が進学、就職の機会を捉えて都市圏に流出しています。このことから、次の2つの取り組みを推進します。</p> <p>(1) 移住・定着の推進 尾鷲市への新しいひとの流れをつくるため、若者等の夢や希望を抱いて地方へ移住する動きを支援し、尾鷲市に訪れ、住みたいという希望の実現に取り組みます。 さらに、尾鷲市への移住・定着を促進するために、第1期で取り組んできた地方移住を直接促進する施策を引き続き展開するだけでなく、将来的な移住にも繋がるよう、尾鷲市との繋がりを築き、尾鷲市への新しいひとの流れをつくります。</p> <p>(2) 繋がりの構築 特定の地域に継続的に多様な形で関わる関係人口の創出・拡大に取り組むとともに、企業や個人による尾鷲市への寄附・投資等による地方創生の取り組みを積極的に実施します。</p>

指標名	現状値 (R2)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	実績値 (R8)	目標値 (R8) ※
転入者数	440人	486人					465人

※目標値は、展望人口を実現させるために、令和2年転入出を基準とし、今後5年間も同等数の転出があると見込んだ場合における毎年必要な転入数



KPIの達成状況 R4実績値/R8目標値			取組項目（小）の今後の方針について	
①100%	0	0%	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる	0
②100%未満 75%以上	1	13%	②事業内容の見直し（改善）を行う（または、行った）	3
③75%未満 50%以上	4	50%	③特に見直しをせず事業を継続する	3
④50%未満	3	38%	④継続的な事業実施を予定していたが中止する	0
合計	8	100%	⑤当初の予定通り事業を終了する	0

地方創生会議からの意見等
<p>1. 人口減少を少しでも抑える対策が求められている中、尾鷲高校「まちいく」についてのアンケート項目「故郷に住み続けたい、いつかは戻りたい」と答えた割合が減少したが、その理由を把握できるようなアンケートの取り方を検討し、具体的な対策を講じる必要がある。 また、尾鷲の文化や歴史を伝えていく取り組みを継続し、若年層にアピールしてもらいたい。</p> <p>2. 若者の地元就職を働きかける取り組みとして、中高生やその親世代に地元企業の良さをアピールすることが重要である。そのためポスター制作等に引き続き取り組むと共に、学校等と連携した地元就職フェアなどの実施を検討してもらいたい。</p> <p>3. 貧困生徒・学生対策が急がれる中、「市の奨学金選考基準が厳しすぎるのではないか」などの意見がある。奨学金制度を利用しやすいものとし、奨学金返還免除についても地元企業が奨学金返還を肩代わりし、地元への就職を促すなどの取り組みについても検討し普及してもらいたい。 また、計画中の対策「地元企業の紹介ポスターによる情報提供に合わせた奨学金に関するポスターの掲示」などの効果的な取り組みを実行してほしい。</p> <p>4. 企業版ふるさと納税については他自治体が企業の参画に苦戦する中、評価できる実績が出ている。尾鷲市が計画した事業方針に賛同する企業が参画していることも評価できる。今後も、企業版ふるさと納税の対象事業を企業の方々に効果的に周知し、事業拡大に向けて引き続き取り組んでもらいたい。</p>

基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

施策概要・目的

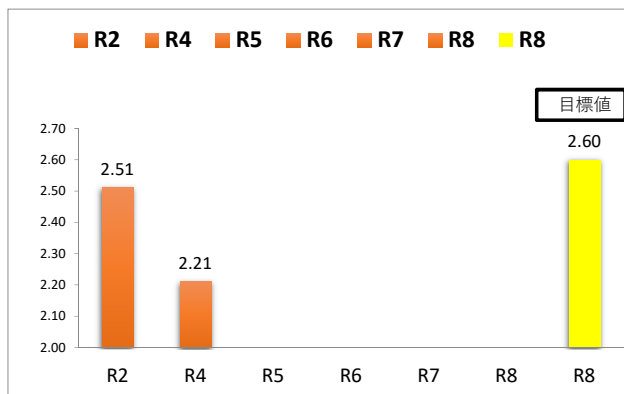
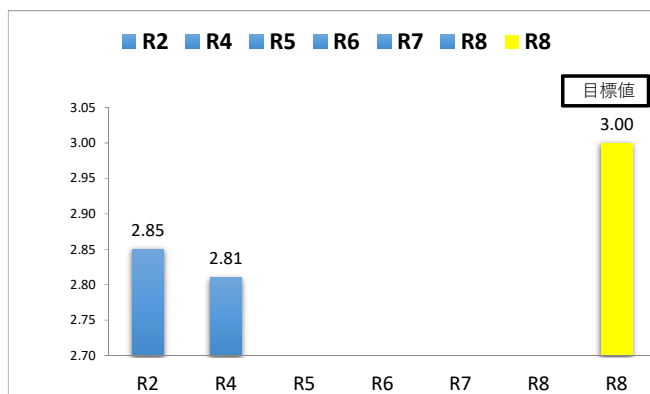
尾鷲市の出生数は1995（平成7）年の216人から、2019（令和元）年で73人と減少傾向が続いており、合計特殊出生率は、1998（平成10）年～2003（平成15）年に1.59となつてから、下げ止まりが見られ1.55～1.59の横ばいで推移しています。これには、全ての年代での未婚率の増加、結婚・出産・子育てに対する経済的負担感や子育てと仕事の両立のしにくさなど様々な要因が複雑に絡み合っています。こうしたことを踏まえ、次の取り組みを推進します。

(1) 結婚・出産・子育てしやすい環境の整備

実効性のある医療・少子化対策・子育て支援を総合的に推進するため、子育て世代包括支援センターを拠点に関係機関と連携し、妊娠・出産・育児までの切れ目のない包括的な支援や地域で支え合う子育てと子どもの居場所づくりなどの子育てサポート体制、子育て情報の発信強化・PRなど都会にはない尾鷲の子育ての魅力を活かし、子育てしたいと思われるまちづくりや、様々な環境に置かれた誰もが子育てしやすいまちづくりを推進し少子化対策の取り組みを推進します。

指標名	現状値 (R2)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	実績値 (R8)	目標値 (R8)
子育て支援の満足度	2.85	2.81					3.00
地域医療体制の満足度	2.51	2.21					2.60

※尾鷲市まちづくりに関するアンケート調査



KPIの達成状況 R4実績値/R8目標値		取組項目 (小) の今後の方針について		
①100%	1	13%	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる	2
②100%未満 75%以上	1	13%	②事業内容の見直し（改善）を行う（または、行った）	0
③75%未満 50%以上	3	38%	③特に見直しをせず事業を継続する	2
④50%未満	3	38%	④継続的な事業実施を予定していたが中止する	0
合計	8	100%	⑤当初の予定通り事業を終了する	0

地方創生会議からの意見等

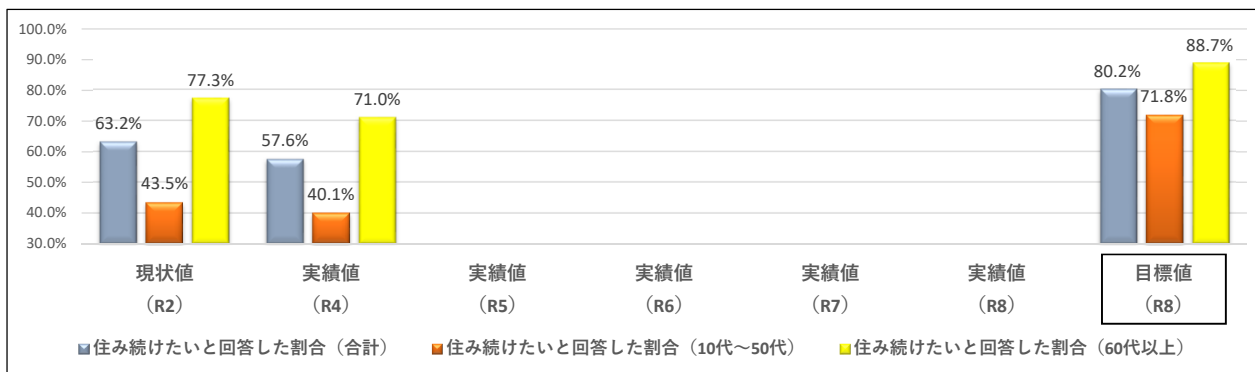
- 少子化対策が急がれる中、子どもたちのニーズが高いイベントについて、「実施に協力していただくボランティアの確保が厳しい」との報告があったが、市民の理解を一層深め協力体制を構築し継続して取り組んでもらいたい。
- 少子化対策にとって特に重要な子育てにおいて、「子育て支援情報冊子」は妊娠届提出時や出産後の全戸訪問時に配布・説明するなど、アピールに努力は見られるもののまだ認知度が低いと思われる。今後はアンケートの取り方を工夫し、市民周知のやり方、使いやすい冊子の充実にも努めていってもらいたい。市のHPに掲載している冊子内容を有効利用することも進めてほしい。
- 特に重視される妊産婦に関わる「産前産後サポート事業」について、本年度はコロナ禍であり、「他人との直接の接触を避ける必要があり、事業実施が困難であった」とと思われる。しかし、このような時にこそ、「妊産婦の孤立を防ぐ何らかのサポートが必要だったのではないかと考えられる。今後、流行する感染症の種類にかかわらず、オンライン面談やSNSなどのツール等を活用したサポート体制を構築し備えることが必要であると思われる。

基本目標4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる

施策概要・目的
<p>魅力的なまちづくりを進めるためには、都市機能、日常生活サービス機能を維持・確保するとともに、地域資源を最大限に活かし、地域に付加価値を持たせることが必要です。このため、次の取り組みを推進します。</p> <p>(1) 活力を生み、安心な生活を実現する環境の確保 地域防災力の向上や、地域公共交通の維持・確保を進めるとともに、既存の公共施設等のストックを最大限活用するなど、ストックマネジメントに取り組むことで、質の高い暮らしのためのまちの機能の充実を図ります。 あわせて、尾鷲市の持つ豊かな自然と観光資源、歴史ある文化、更にはスポーツなど尾鷲市の特色や資源を最大限に活かして、地域の活性化と魅力向上を図ります。 また、急速な高齢化にも対応し、人々が地域において安心して暮らすことができるよう、地域力を活かした健康づくりへの取り組みや、医療・福祉サービス等の機能を確保し健康寿命の延伸を目指すとともに、地域における防災・減災や地域の交通安全の確保を図ります。</p>

指標名	現状値 (R2)	実績値 (R4)	実績値 (R5)	実績値 (R6)	実績値 (R7)	実績値 (R8)	目標値 (R8)
住み続けたいと回答した割合 (合計)	63.2%	57.6%					80.2%
住み続けたいと回答した割合 (10代~50代)	43.5%	40.1%					71.8%
住み続けたいと回答した割合 (60代以上)	77.3%	71.0%					88.7%

※尾鷲市まちづくりに関するアンケート調査 「これからもずっと尾鷲市に住みたい」と答えた割合



KPIの達成状況 R4実績値/R8目標値			取組項目 (小) の今後の方針について	
①100%	10	28%	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる	0
②100%未満 75%以上	7	19%	②事業内容の見直し (改善) を行う (または、行った)	7
③75%未満 50%以上	9	25%	③特に見直しをせず事業を継続する	10
④50%未満	10	28%	④継続的な事業実施を予定していたが中止する	0
合計	36	100%	⑤当初の予定通り事業を終了する	0

地方創生会議からの意見等
<p>1. 魅力的なまちづくりの指標とされるアンケート項目「尾鷲市に住み続けたい」と回答した割合の目標値について、10代~50代の目標値71.8%を基準にすると、60代上の目標値88.7%は低すぎると思われることから、目標設定値を再検討してほしい。</p> <p>2. コロナ禍で実施されたにも関わらず、「介護予防教室への参加者数」や「スクエアステップリーダー数」は伸びていて成果が出ている。今後も積極的に継続してもらいたい。</p> <p>3. 尾鷲市の入院男性患者の医療費において「肺がんがトップ」である。現況では肺がん検診受診率は少しずつ上昇しているが、今後も受診率を向上させて早期発見に繋げていく必要がある。</p> <p>4. 市内観光については、観光資源として熊野古道の存在は大きいと思うが、熊野古道以外の観光資源もPRし集客するような活動にも取り組んでほしい。また、コロナ禍にあってもツアー参加者数は確保されていた実績 (三重県北勢地域の修学旅行など誘致) を踏まえ、今後の活動にも繋げてほしい。</p>